

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 48 号

平成16年9月発行

編集者 内藤 文隆
発行 三水会(北里大学
水産学部同窓会)
事務局 〒246-0031神奈川県横浜
市瀬谷区瀬谷5-22-1
TEL フリーダイヤル
0120-873135

<http://www.ajt.co.jp/sansuikai>
E-mail sansuikai@ajt.co.jp

総会報告	P. 2
『学会賞受賞記念講演会』に出席して	P. 3
職場紹介(近況報告)	P. 4
若手研究者奨励賞受賞	P. 5

関東地区親睦会	P. 6
体育祭報告	P. 7
「見たい・知りたい・話したい」	P. 8
南極写真展、懇親会案内他。	



「学会賞受賞記念講演会、と祝賀会より」・・・(P. 3)

『平成16年度三水会定期総会報告』

平成16年度定期総会が5月15日(土)午後六時より本学白金キャンパス3号館3802会議室において開催されました。

理事・代議員47名が出席(内、委任状8名)で総会は成立した。議長に稲沢昌茂氏(5期食品)、議事録署名人に西村直也氏(2期増殖)、水島純雄氏(3期増殖)を選出し、議事に入り上程された前年度事業報告・同収支決算・平成16年度事業計画案・同収支予算案すべて原案通り賛成多数で可決されました。総会において承認されました昨年度の決算・本年度の事業計画・予算は次の通りです。



平成16年度定期総会(中央)児玉学部長

平成16年度事業計画

1、会報の発行

同窓生の動向、学部の実況、各種の情報などを内容とした会報を平成16年9月と平成17年3月の2回発行する。

2、「水産学部だより」の配布

本学水産学部の発行する「水産学部だより30号」を増刷し、全会員に配布する。

3、会員の現況の把握

全学同窓会と連携し、不明会員の調査など名簿情報の正確性の向上に努める。

4、講演会の開催

日本水産学会賞功績賞を受賞された神谷教授と日本農学賞を受賞された川内教授の学会賞受賞記念講演会を開催する。

5、同期会等の助成

同期会、講座別OB会および地方親睦会等卒業生の集会の費用の一部を助成する。

6、地区親睦会の開催

関東地区の会員を主な対象とした親睦会を千葉にて開催する。地方で開催の親睦会など卒業生の集会において費用の一部を助成する。

7、懇談会の開催

大学・水産学部在学生との懇談会を開催し意見交換会を行う。

8、課外活動助成

クラブの活動費及び大学祭、体育祭費用の一部を助成する。

9、就職ガイダンスの開催

各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸校舎にて行う。

10、漁船海難遺児育英会寄付

漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し寄付を行う。

平成16年度予算

支出の部		収入の部	
科目	予算額	科目	予算額
1.事業費	4,050,000	1.部会助成金	4,835,000
(1)会報発行費	1,700,000	(2)学部だより配布費	250,000
(2)講演会の開催	150,000	(3)奨励金助成費	250,000
(4)同収支助成費	250,000	(5)地区親睦会開催	950,000
(6)大学・学生との懇談会	250,000	(7)課外活動助成	200,000
(8)就職ガイダンス費	250,000	(9)漁船海難遺児育英会寄付	50,000
2.運営・管理費	2,602,000	2.会報部送料補助	472,000
(1)印刷・通信費	380,000	3.前年度繰越金	1,185,348
(2)会議費	800,000	4.貯金利息	1,000
(3)総会費	250,000	5.雑収入	500,000
(4)事務給費	1,122,000		
(5)慶弔費	50,000		
3.予備費	141,348		
合計	6,793,348	合計	6,793,348

平成15年度収支決算書

支 出 の 部			収 入 の 部		
科 目	予算額	決算額	科 目	予算額	決算額
1.事業費	4,550,000	4,484,808			
(1)会報発行費	1,630,000	1,433,838	1.部会助成金	4,280,000	4,280,000
(2)学部だより配布費	250,000	207,880	(2)奨励金助成費	455,300	455,300
(3)奨励金助成費	150,000	1,701,409	(3)奨励金助成費	455,300	455,300
(4)同収支助成費	250,000	178,000	(4)同収支助成費	250,000	1,300,000
(5)地区親睦会開催	250,000	200,000	(5)地区親睦会開催	200,000	1,300,000
(6)大学・学生との懇談会	250,000	200,000	(6)大学・学生との懇談会	200,000	1,249,838
(7)課外活動助成	200,000	200,000	(7)課外活動助成	200,000	1,249,838
(8)就職ガイダンス費	250,000	217,437	(8)就職ガイダンス費	1,000	816
(9)漁船海難遺児育英会寄付	50,000	50,000	(9)漁船海難遺児育英会寄付	150,000	459,154
2.運営・管理費	2,592,000	1,557,518	2.会報部送料補助	472,000	455,300
(1)印刷・通信費	380,000	269,355	(2)前年度繰越金	1,185,348	1,185,348
(2)会議費	700,000	531,492	(3)貯金利息	1,000	816
(3)総会費	250,000	201,879	(4)雑収入	150,000	459,154
(4)事務給費	1,122,000	815,942			
(5)慶弔費	50,000	45,790			
3.予備費	264,138	1,302,816			
(1)電灯・水・暖房費	—	32,466			
(2)学費・生活費・学費補助金	—	83,000			
(3)学費補助金	264,138	1,185,348			
合 計	7,416,138	7,225,140	合 計	7,416,138	7,225,140

『学会受賞記念講演会』に出席 して①

食品学科 9期生 村田 和隆

神谷教授、川内教授、各賞受賞おめでとうございます。

白金キャンパスで行われた記念講演会に出席し、両教授のお元氣な姿が見られ、21年前の学生時代にタイムスリップする事ができました。

卒論という授業の一環で僅か一年間お手伝いした事が、後輩たちに受け継がれ今もその研究が続けられていると聞くと、少しは役に立ったのかなといううれしさを感じました。

私は、神谷教授の衛生学研究室の所属でした。講演終了後、「お疲れ様でした」と、声をかけさせて頂くと「皆が一生懸命してくれたお陰で自分は遊んでいたのに賞をもらってしまったよ」と、言われました。

テニス同好会に所属していた私は、当時顧問だった神谷教授とは、遊び相手の一人でしたので照れ臭い思いでした。

また、祝賀会ではお酒がすすむに従い、水産学部の厳しい状況を聞き、びっくりさせられました。三陸が良かったというノスタルジックな事を言っても生き残れるわけではありません。

水産学部の皆で、生き残って行くために何が出来なのか話し合う機会

が持てたらと痛感しております。また、研究室単位の二次会では、最近の三陸の状況を聞く事ができ、さらに驚いております。共同トイレ、フロがなくなっただけは時代の流れで仕方ない事と思いますが、研修所の納会、ドンブリ一氣が絶滅しているの聞き、深い悲しみを感じたのは「オジサン」になってしまった私だけなのでしょうか。

楽しい思いをした講演会、祝賀会でしたがこれからの三陸（水産）が心配されるスタートの日ともなった一日でした。



記念品の贈呈を受ける両先生

『学会受賞記念講演会』に出席 して②

食品学科 24期生 高坂 友和

4月24日（土）に北里大学白金キャンパスにて川内教授の日本農学賞、神谷教授の日本水産学会賞功績賞の受賞記念講演会が三水会の主催で開催されました。農学賞については、いくつもある農学系の学会の中から選ばれた賞であることと、歴代の受賞者は国立大学の教授ばかりであるため今回の川内教授（海洋分子生物学研究室）の受賞は私立大学の教授では初の偉業であるとのことでした。神谷教授（水産資源化学研究室）の功績賞受賞は水産学部では橘高先生以来の快挙とのことでした。

記念講演会は白金キャンパスの本館にある大会議室を会場に行われました。会場の入口では懐かしい友人と声を弾ませながら入場してくる参加者の姿が多く見受けられました。講演の開始前にはすでに会場の座席が埋り、講演中にも後から来た入場者のために座席を追加するほどの盛況ぶりでした。

講演は神谷教授から始まり、学生時代にも授業で勉強した海洋生物レクチンの話を中心に講演をしてくださいました。海の中にはまだまだ利用されていない有用な生物資源がたくさん有り、水産学の必要性を改め

て実感しました。次に講演された川内教授は、ホルモンを利用した実用的な研究の成果や夢の膨らむような今後の研究について、ユーモアを交えながら講演をしていただきました。

今回は同窓会の講演会ということもあって私も久しぶりに同級の友人に会うことができました。友人と肩を並べて座って講演を聴いていると、学生時代の三陸に戻ったかのような錯覚を感じました。講演終了後に三水会の長谷川会長より川内教授、神谷教授に記念品の贈呈がありました。講演会終了後、食堂にて祝賀会が開催されました。先生を囲みながらひさびさに会った同級の友人や先輩、後輩達と近況を語り合う事ができ、とても楽しい時間を得ることができました。

最後になりますが、川内教授、神谷教授の御健康と御研究の益々の御発展をお祈り申し上げます。

会場設営の際、休日のなかご協力していただきました本学職員の皆様に深く御礼申し上げます。

職場紹介

『ヤンマーマリンファーム』

ヤンマー株式会社

環境プラトン

エンジニアリング部

ヤンマーマリンファーム

所長 室越 章

(増殖学科 7期生)

みなさんは、「ヤンマー」と言う
と農業機械・ディーゼルエンジン等
の機械メーカーのイメージ強いと思
います。そんな中で、生物系の研
究開発を行っているのが、私の職場
であるヤンマーマリンファームです。
私自身、マリンファーム開設され、
勤務するまでは、ヤンマーと言え
ば天気予報か耕耘機やトラクターを
作っているメーカーとしての認識が
強かったものです。

マリンファームは昭和62年大分
県東国東郡武蔵町に「つくり育てる
漁業」を支援する水産物の飼育研究
施設として開設され、養殖・種苗生
産分野における、省力化・生産性の
向上をはかるための商品開発を行っ
てきました。私は、マリンファーム
が開所されたときに転職し、そのま
ま居座り続けていますので、気がつ
いてみるとすでに17年目に入っ
ています。



室越所長

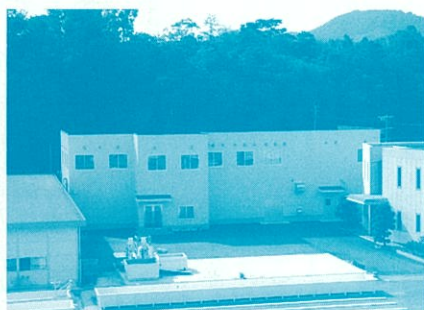
さて、この年月の間に、水産業を
取り巻く状況は大きく変化し、一方
では輸入水産物との価格競争、他方
「食」の安全性に対する市場の要求
等の生産品における品質が比較評価
される時代となって来ました。

この様な状況の中で、日本各地の
漁協や栽培漁業センターでは、種苗
生産事業に取り組んでいます。種
苗生産事業の効率化を図るうえでひ
とつのボトルネックとなっていたこ
とが、生物餌料の問題でした。

先にも述べたようにマリンファ
ームでは、各種の種苗生産システムの
開発と同時に、高効率な微細藻類培
養システムを開発し、各地の種苗生

産施設や中間育成施設に納入して来
ましたが、こうした装置はイニシヤ
ルコストが大きいことや、培養に関
する専門技術者の養成が重要である
こと等から、もつと手軽に生物餌料
が入手したいと言った要望が多く寄
せられていました。

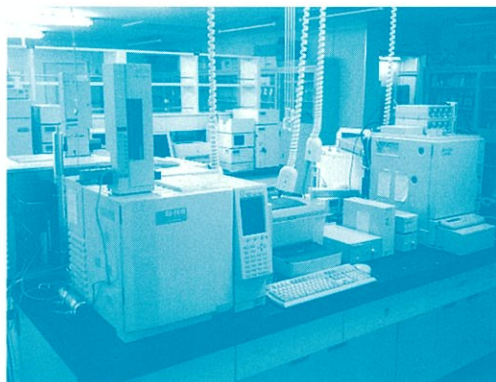
この様な市場の要望にこたえるべく、
平成15年11月にマリンファーム
内に餌料研究工場を開設しました。
餌料研究工場は貝類の種苗生産に
利用される珪藻類を中心とした、生
物餌料生産施設と、微細藻類の培養
技術を応用することで、海洋生物が
もつ有用成分を効率的に回収し、医
薬・食品分野への事業展開を進める
ための研究施設の両面を備えていま
す。



施設全景



培養室内



分析室

『若手研究者奨励賞受賞』

日本学術振興会特別研究員
東北区水産研究所

岡本 誠
(増殖学科22期生)

私が水産学部に入學したのは今から約11年前の平成5年、その後、大学院に進學し博士課程を修了するまで約9年を三陸で過ごしました。通常の学生の3倍もの期間で得たものは筆舌に尽くしがたいものがあります。そのあいだに三陸の周辺環境のみならず水産学部のなかでも様々な変遷があったことはいうまでもありません。「三陸スーパ―」になったこと、その店の前には信号機が設置され、話題になったことが懐かしく思えます。大学の各研究室の名称も変わりました。私がお世話になった環境生態学研究室もいまでは水圏生態学研究室と呼ばれ、かつて小部屋と呼ばれた顕微鏡室は消えましたが、井田教授の肉体が衰えていないことが何よりも嬉しいことです。

私は現在、宮城県塩釜市にある東北区水産研究所で特別研究員として研究を続けており、その関係で今でも水産学部を訪れる機会が二ヶ月に一度ぐらいの割合であります。東北区水産研究所は古くから水産学部と

の共同研究が行われてきたこともあり、卒業生のなかでも当研究所を訪れた方は多くいるでしょう。卒論のために出向していた人、また調査船の若鷹丸でもう一つの出航を経験された人もいると思います。私が現在所属している研究室では中深層に生息する動物プランクトンや魚類に関する研究を行っているため、年に数回、2週間前後の若鷹丸による航海を行っています。最近ではやつと船にも慣れてきましたが、冬の航海では低気圧に襲われることが多く、下船後は私にとって必要のないダイエツト効果が必ずみられます。航海が終わるとサンプルの整理で忙しくなりますが、東北沖の水深1000m前後から得たサンプルの中には魚好きにとってはたまらない深海性魚類が含まれています。まれにフクロウナギやアカチョッキクジラウオなどが採れた時は、昨今増殖している食玩マニアに自慢したくてたまらなくなります。さすがにそのままテレビの上に飾ることは出来ないもので、標本瓶に入れてにやにやしてしまう誰にも見られてはいけないうれしみがありません(食玩マニアとかわからないかも)。これらの標本をもとに研究発表を行い、論文を作成することが研究の最終目的となるわけですが、その都度必要な資料を集めることだけで撃沈しそうになります。しかし、それらの資料は井田教授が所蔵しているこ

とが多く、いまでもお世話になっていきます。通常ならそれらを郵送してもらえば簡単に解決するのですが、それをあえて避けて塩釜から3時間ちよつとかけて三陸まで取りに行きます。文献一つをコピーする手間としては無駄が多いでしょうが、三陸をさつてからサケが母川に回帰する気持ちがよくわかりました。みなさんも長期の休みがあれば三陸へ行きたくありませんか？



恩師井田教授(左)・朝日田助教授(右)とともに



全学同窓会小山田会長より授与(5/15)



『平成16年度三水区関東地区 親睦会に参加して』

増殖学科9期生 渡辺 宏

去る、7月25日(日)、千葉県
富津公園において、関東在住の会員
を対象とした「平成16年度三水区
関東地区親睦会」が行われました。

晴天の当日、私が三水会の親睦会
に参加するのは、今回が初めてで、
同級生や三水会のメンバーの方々と
は疎遠にしていたのでチョット心配
でしたが、集合場所の海の家「ビー
チボーイ」に着くと、いやはや、約
20年前の知った顔がチラホラとう
かがえて、安心しました。開会の挨拶
とともに幹事の高坂さんから、が
っかりするご案内が、「本日は強風
のため、地曳き網は中止となりました
。申し訳ございません」。いはい
えそれは、私の日頃の三水会への協
力的でない行いに、神様が罰を与え
たのでしょうか。残念！しかし、一緒
に来た我が家族は、強風など、どこ
吹く風とばかりに海岸へ突撃を敢行
し、頭から波を浴びて、ひっくり返
って喜んでおりました。同級の中村
栄君も、「ご息と「こんな時ぐらい
しか大騒ぎできないぜ!」とばかり
に大遊びをしておりました。地曳き
網は中止となりましたが、幹事さん
のはからいで、急遽、子供たちを対
象に「スイカ割り」が砂浜で行われ、

目隠しされ、長い竹竿を持たされた
子供たちは、スイカを目の前に右往
左往して周りの笑いを誘っていきま
した。強風のせいかわ、波打ち際には
ミズクラゲが、かなりたくさん寄せ
られていて、波乗りを遊びをして海
底に足が着くたびに、グニョーグニ
ユーとクラゲを踏みつぶしてチョッ
ト気持ちが悪かったのですが、子供
たちはそれも楽しいのか、大はしゃ
ぎでした。地曳き網の中止は残念で
したが、家族連れの私には楽しめた
一日でした。もう少し同級生と懇親
がはかれるともっとよかったので
す。長谷川会長、幹事のみな
さま、そしてご参加のみなさま、大変
お疲れ様でした。



『第31回 体育祭報告』

3年 五島 隆喜

三陸に暖かさがまだ訪れず、寒さが残る五月中旬に第31回体育祭が開催されました。

今年の種目は、昨年と同じくグラウンドではソフトボール、体育館ではドッジボールと3ON3が行われました。

今年の体育祭は、我々実行委員会の予想を少し上回る約150名の学生が参加してくれました。特にソフトボールへのエントリーがとて多く、2日間にわたって白熱した試合が展開され、大いに盛り上がりを見せました。心配していた天候も残念ながら2日目の朝は小雨となりましたが、なんとか予定通り行うことが出来ました。どの種目に於いてもそれぞれ白熱した試合が展開されましたが、大きな怪我をする人や特に大きな問題も発生することもなく、参加者みんなが楽しめ、そして無事に体育祭を終える事が出来ました。

この体育祭を機に学年という壁を越えて、三陸の学生たちの絆が強くなれば良いとは思っています。今まであまり交流のなかった同学年の間でも輪が広がり、参加者全員が楽しんでくれた体育祭になった事が、我々実行委員にとって最もうれしい事でした。



体育祭当日までの準備段階では、慣れないことも多くありとても大変でした。ちゃんと盛り上がってくれるかという不安もあり、いろいろな苦労がありました。しかし結果として、多くの学生が参加し楽しんでくれたことと、無事に終えることが出来たことは本当によかったと思います。そして、みんなにとってもいい思い出となったことと思います。今年度も三水会より、体育祭へのご援助をいただきまして本当にありがとうございます。来年度も、より一層体育祭を盛り上げてくれるよう後輩たちへ引き継いでいきたいと思っていますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

水産学部体育祭 成績報告

1位 2Finger 3F 濱野 圭順

ドッジボール みんなと一緒に身体を動かしたのは、久しぶりだった。それだけに熱い戦いが出来た気がする。みんなの力が結集して「1位」を勝ち取ったことがうれしかった。

2位 イエローキャブ.com
3位 KATTU



1位 蛭蟻と飛蟻 院生 田中 康久

3on3 久しぶりの運動で、翌日は筋肉痛になってしまったが、充実した試合が出来た。軽く汗を流したのも気持ちよく、楽しかった。来年もエントリーして「目指せ、優勝！」

2位 TOTO☆
3位 生理研



1位 ルーキーズ 2F 出口 貴史

ソフトボール さわやかな天候のなか、白熱した試合が展開された。チームワークで優勝できた。来年もまた出場したい。

2位 ソフトボール愛好会
3位 3Finger



(多くのジャンプシュートが見られた3ON3)



(熱戦が繰り広げられたソフトボール)

